

ローカルヒーロー通信 第3号

特集 ～ ローカルヒーロー・チーム ～

『ローカルヒーロー通信』 創刊の辞

全国各地でヒーロー達が活動しています。「ローカルヒーロー」「オリジナルヒーロー」など名称も様々、活動目的も内容も規模も様々ですが、その多くは人々と触れ合うだけでなく、ステージの上で傷つき、命懸けで戦いながら自らの正義を示そうとします。他のキャラクターコンテンツには見られないその姿は、口先だけではない強力なメッセージ性を持って観る者に迫ります。またステージ上だけでなく、地域貢献、福祉、啓発活動などなど、「ヒーロー」は様々な分野で力を発揮できる可能性を持っているといえるでしょう。

一方で、ヒーローを運営する多くの団体は、様々な課題も抱えています。運営に行き詰まりを感じている方もおられますが、団体運営の情報を手に出来る機会が豊富とはいえません。また第三者からは「テレビ番組の模倣」「大人の怪獣ゴッコ」「税金の無駄」等と根拠のない雑言も聞かれます。ヒーロー達の実態、特に多大な社会貢献を、当事者とファン以外の第三者が知る機会は、多いとは言えないでしょう。

そんなヒーロー達の実態を知り、その力と魅力を広めたい。これが本誌の目的です。毎号テーマを決め、ヒーローの担い手の方々の声を聞いていきます。

『イクメン戦士ネリマックス』

代表

最初のヒーロー体験

子供の頃から特撮ヒーローは大好きでした。中学生の頃いじめを受けていたんですが、その時に特撮好きの友達が自分のところに集まってくれて、道が拓けた経験があります。

ヒーローから何回か離れた時期もあったんですが、中学生のころがピークでした。授業時間が早めに終わると、先生が「何かやって」と声をかけてくるんです。自作の衣装で、一人で仮面ライダーの変身シーンをするだけなんですけど、そのうち何度もやらされるようになって、後悔しました。それが最初のヒーローショーでした。それから友達を洗脳しまして、自作のオリジナルヒーローの衣装作って、ロケーションのいいところに行って、写真を撮ったりしていました。最初は既存のヒーローの物まねっばかったんですけど、もっとカッコよくしてやろうと、オリジナルのヒーローを作りました。

ネリマックスの歴史

ネリマックスの最初のきっかけは、就職してから経験した祭です。職場が朝霞市にありまして、その納涼祭に自作のヒーローのコスプレで出たんです。物凄いボロボロのコスプレでした。自分以外にも、海外で買ったとか言う、有名なヒーローのコスプレの先輩もいたんですが、一時間もすると本物そっくりの先輩のほうじゃなく、自分の方に子供たちが来るんです。何であっちに行かないの？と聞いたら、全然相手にしてくれないから、と言うんです。子供はよく見ているな、と思いました。その時、いつか自作のヒーローを作りたい、そして思いっきり動いて子供たちにアピールしてやろう、と思いました。

当時は職場のあった朝霞に住んでおりまして、すぐ隣の大泉学園とも行き来していたんですが、そのうち練馬のパパさん達のボランティアグループ「ねりパパ」と出会いました。自分も何かやりたい、と言いましたら、チームリーダーの方から唐突に「じゃあネリマックス作ってよ！」と言われました。で、30人くらいの「ねりパパ」のメンバーさんたちが意見を出し合って、基本的な設定が出来ました。



最初のネリマックスの衣装は横に青いラインが入っているんですが、それは西部ライオンズのユニフォームに似せています。そして炎のように育児に燃えているマスクがいい、というイメージをいただきまして、最初のネリマックスのデザインが出来ました。敵については、子供たちの本当の敵って何だろう？と考えて、虐待、育児放棄、少子高齢化と、出て来たアイデアを基にした怪人を沢山作りました。また本当の大本は、親の子供に対する無関心ではないか、ということになり、ムカンシン帝国の設定が出来ました。

マスクはじめ衣装は自分が作りしました。2012年にネリマックスの最初の着ぐるみを作成し、2年間くらいやってからネリマックスハイパーに変わり、今年に入ってからネリマックスハイパー改、となっています。壊れた着ぐるみを治すのに合わせて、自分自身の造形技術がアップしてきたので、新しい素材を試すなどもして、デザインも変わって来ています。

最初のショーは2012年8月29日、メンバー3人で行いました。児童館で毎週「ねりパパ」さんたちが絵本や紙芝居の読み聞かせをされていましたので、それに組み合わせました。怪人たちが読み聞かせの邪魔をしに出てくると、ネリマックスが登場してやっつける、と言う流れでした。最初のステージショーでは、自分は悪役のギャクタイン將軍に入っていたんですが、動画で見たらネリマックスの演技が余りにひどい。で俺にやらせるとなって、やったら形になっているな、と。そこからは自分で演じるようになりました。

児童養護施設との出会い

その頃、SNSサイトでつながっていた大阪の知り合いから、児童養護施設の現状を教えてもらったんです。当時私は親が死別するなどした子が集まる孤児園のイメージがあったんですが、実際には全国的に5割以上が親の虐待で預けられている子供たちで、特に東京では7割近くが虐待

が原因だったんです。でも子供は親元に帰りたがり、また虐待を受けて施設に帰ってくる。痣だらけの子供に施設の人が訳を聞いても、親をかばって応えない。話を聞いて、自分の出来ることで何かしてあげたいと思ったんです。そこでまともなヒーローショーができるようになった後、東京中の養護施設に電話しました。ただ学業ボランティアは求められたんですが、子供向けの遊びみたいなものは要りませんという答えがほとんどだったんです。でも何年かやっていて定着すると、他からもたくさん依頼が来るようになって。今では日程が重なって、断らなければならなかったりもしています。障害者支援施設もよく行っています。メンバーは増えたり減ったりしています。最初は「ねりパパ」のメンバーが手伝ってくれていたんですが、「ねりパパ」のリーダーから、「ネリマックスのリーダーは貴方だから、全部任せるよ」と言われて。現在は完全に一人歩きしています。

ショーで意識していること

呼ばれたからには、土地の特性を取り入れて、思い切り町に溶け込むことを意識しています。話をし、祭を手伝います。その土地の歌を覚えて、ステージで歌うこともしています。それからネリマックスは、子供たちのために立ち上がった大人だったら誰でも変身できる設定になっています。この設定を生かして、地域の有名な方、商工会の青年部長や、養護施設の職員さんが変身するという演出も入れています。子供たちがどよめきますよ。

ステージのアクションは、最近はコスモフラッシュャーさんにお任せしています。シナリオは自分で書いています。昨年までは悪と正義の戦いを描いていたんですが、極めすぎて殺伐としてしまったんです。2016年からは、話が狭くならないように、誰でも喜べるような、色々なキャラクターが個性を謳歌できるような、ディズニーランドのようなステージショーを目指しています。自分はピーターパンのつもりでいます。最近は他のヒーローさんをじゃんじゃん勧誘して、協力していただいています。ヒーローが一人より二人、二人より三人の方が、子供の目の輝きが全然違うんです。

自分は、「タイガーマスク」のようなヒーローになれたらいいなと思っています。そして子供を喜ばせる為に、少しでも有名になりたいと思います。誰もが知っているネリマックスが自分達のところに来てくれた！となったら、子供たちは喜んでくれます。だから栃木だろうが群馬だろうが千葉だろうが神奈川だろうが、行くことにしています。

(2016年9月14日 於 城西大学)

イクメン戦士ネリマックス 代表

2012年から運営開始。

HPは <http://neripapa.jimdo.com/>ネリマックスとは/



2017年3月5日開催のステージショーポスター。この時も複数団体とのコラボショーを展開した。



児童養護施設でのステージショー（2017年2月13日）。フィナーレでは敵味方とも手を繋ぎ、挨拶するのがネリマックスショーの定番となっている。

加藤 勉氏

『星龍戦士コスモフラッシャー』



最初のヒーロー体験

ヒーロー原体験は、中学校のときにハマったジャッキー・チェンでした。初めてテレビで見たときの衝撃、面白さ、かっこよさが、今の僕を支えています。もちろんお会いしたことは無いんですが、勝手に僕は師匠だと思っています。

ジャッキー・チェンになりたくて、高校の時にアクションチームの養成所に入りました。当時は、日本でアクションがブームになって、あちこちに養成所が出来て、広く生徒を募集した時期だったんです。その頃からヒーローショーのバイトを土日夏休みに始めまして、今でも本業として継続しています。

コスモフラッシャーの歴史

大手テレビ番組の撮影現場やステージショーに出たんですが、ある程度年齢が来ると現場が入りにくくなる中で、だったら自分のヒーロー、著作権のないヒーローを作ろうと考えました。

もともとデブーマスク、ハンダーFOXと同じKWAというユニットで、デブーマスクはアクションの後輩です。アクションできる人を集めて、最初はライブハウスでヒーローショーを始めたんです。最初の着ぐるみは規制品を改造したもので、設定にも深いコンセプトはありませんでした。ライブハウスで悪い奴が暴れていると、ヒーローが出てくる。お客さんが見て「ヒーローだ」「ヒーローが出てきた」と分かればいい、抽象的な存在でした。そこから後付で「宇宙」や「竜」といった設定を付けていったんです。

コスモフラッシャーはいわゆるお助けヒーローで、宇宙のヒーローという設定です。元々はライブの流れで出てくるヒーローですから、どこどこの地域のヒーローと言うのではなかったんです。シンプルな造形になっているのも、ヒーローそのものだからです。ただローカルヒーローの世界に入ると、地域を書かなきゃいけない時があるので、その時は「宇宙」のヒーロー、秘密基地は東京都練馬区にあるから、練馬のローカルヒーロー、ということにしています。

その後イメージを崩さないように、プロの造形師ではないんですが、本業は画家をやっている方に着ぐるみを作ってもらったんです。それで完全なオリジナルになったので、それでしばらく、3年くらい活動していました。ただ制作を急がしてしまったこともあって、余りつくりが美しいものではなかったんです。で2015年に映画『日本ローカルヒーロー大決戦』の撮影があったので、撮影に耐える様にもう一度作り直しました。僕の着ぐるみは一点ものなので、多少のメンテは出来るんですが、大事に使っています。

練馬つながりで、2014年に顔を合わせてから、ネリマックスとも仲良くしています。一緒に活動していたKWAのメンバーが愛知に行って、僕だけ東京だったんで、今はフリーになって個人活動もする中で、ネリマックスさんとも活動しています。

ヒーロー、俳優、スタントマン

ヒーローをやっている人には、本業は俳優で、練習になるからヒーローやっていると、ヒーローが好きでやっている人と、造形が好きでやっている人とがいます。

日本は、スタントマンという職業が確立していないんです。アメリカみたいに、誰々の俳優のスタントマンとして年間契約したり、スタントマンそのものにスポンサーが付いてスタントショーをやったりとか、そういうのが無くて。映画なんかでもエキストラのちょっと上くらいの扱いで。大手でヒーローの主演やっている人もいますが、ほんのご



児童養護施設でのステージショー（2017年2月13日）。怪人ゴロゴローネ（左）が、部下のモデル（右）から暗黒の鎧「ロストアーマー」を受け取るシーン。

く一部です。土日にヒーローショーやっているだけでは食っていけない。好きでアクションやっていて、でもやりながら就職したという人が圧倒的に多いです。

ここ数年、ローカルヒーローの世界にもアクションのプロが当たり前のように参入してきたと思います。ファンの人たちがアクションのレベルでランク付けするようにもなっていますよね。レギュラー番組は持てないけど、アクションむちゃくちゃうまい人たちが、俺達も俺達もとどんどん入ってきたという感じでしょうかね。

ジャッキー・チェンの初期の映画は、弱い駄目な人間が修行して強くなる内容になっています。笑える要素もありますが、最後にはかっこよく戦う。僕が言わなくてもみんな知っていることだと思います。僕の人生かなり変えてく

れましたからね。良くも悪くも。むしろ悪い方向に。

ジャッキー・チェンのように、夢を持たせるかっこよさを伝えていきたいな、憧れられるヒーローになって行きたいと思っています。

(2016年9月14日 於 城西大学)

加藤 勉 (かとう べん)

1969年生。東京都出身。?年から『星龍戦士コスモフラッシュ』を運営。また練馬区光が丘のハンパキャラ「カンフーキャットゴロちゃん」、世界征服を企む宇宙の鬼「ゴロゴローネ」も運営。Twitterは <https://twitter.com/gorogorooone>

城西大学経営学部 石井龍太研究室活動報告

(2017年1月~2017年10月)

城西大学経営学部 石井龍太研究室では、「ローカルヒーロー」を通じた教育・研究活動を行っています。またゼミナールではオリジナルヒーロー「リベレスパーJ」(2016年~)を運営しています。

なお2017年6月から2年生による新ヒーロー「高麗戦士トライ」が活動を開始しました。2017年9月からは3年生による新ヒーロー「ルーガライザーJ」が始動します。応援、宜しくお願い申し上げます。

「リベレスパーJ」出動履歴

2017年02月17日 城西大学経営学部入学前体験講座(埼玉県坂戸市)

2017年04月01日 第33回鶴ヶ島桜まつり(埼玉県鶴ヶ島市)

※石井ゼミ主催の、ニチゲリヨン、クリエイター、トーダイン、サンガイアとのコラボショー(左上写真)

2017年7月15日 坂戸七夕まつり(埼玉県坂戸市)

2017年8月19日 戸田ふるさと祭り(埼玉県戸田市)

※埼京戦隊ドテレンジャー主催のコラボショー

2017年9月17日 第35回つるがしま子どもフェスタ(埼玉県鶴ヶ島市)

2017年10月1日 2017日本ローカルヒーロー祭(千葉県千葉市)

※石井ゼミ主催の、ニチゲリヨン、クリエイター、ツクバダイン、サンガイア、スターナイザー、ダライザーとのコラボショー



「高麗戦士トライ」出動履歴

2017年6月18日 渡来人の里魅力アップフォーラム(埼玉県日高市)

2017年7月17日 下川原夏祭り(埼玉県毛呂山町) ※左下写真

2017年9月23日 巾着田曼珠沙華祭(埼玉県日高市)



ローカルヒーロー通信 第3号

2017年(平成29年)10月00日発行

編集 石井龍太

発行 城西大学経営学部石井龍太研究室

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1

ご意見、お問い合わせは ishiir@josai.ac.jp

※無断転載・複製を禁じます。

※バックナンバーは研究室HPにてご覧いただけます。 <http://www.josai.ac.jp/~ishiir/>